

## 新著紹介

### 速見郡文化財調査目録 第一集

速見郡地教委連絡協議会に於て昭和廿八年五月協議の結果、郡内各町村に名目的設置の文化財保存会の現状を反省し、速見郡文化財調査委員会を設けて之が調査、分類登録、研究、紹介、顕彰を企て、その第一次事業として郡内文化財の分布、所在、分類、登録としての本目録を作成したものである。

内容は各調査員の調査による各種文化財、山香部七十五、(調査員志手環、伊藤継司)・杵築部一二四(調査員土居寛中、入江安親)・日出部六九(調査員森永源一、森本白華、岩尾純勝)を採録し、これに一一々簡明なる説明を加えてある。(昭和廿九年、一〇、速見郡地教委連絡協議会刊洋並製A五判七九頁非売) (立川)

### 臼杵市指定文化財 第一集

市文化財専門委員の調査による市指定文化財標識の部織部型燈籠以下四十五、有形文化財絵彫彫刻の部十八、書跡、筆跡、典籍、古文の部三、工芸の部十五点、考古・民俗の部一、建築の部四、史跡四、名勝の

部四、天然記念物五、無形文化財芸能関係八を採録してある。(非売、半紙摺写印刷四枚) (立川)

### 八十年の歩

竹田小学校が創立八十周年を迎えるに當り、学校の足跡と、多数の恩師、先輩各位の行跡をたずねて無形の恩沢に酬いと共に、現在在校生をはじめ將來其の校に学ぶ多数児童蓄学の資としての編纂で先づ巻頭に校歌、現校舍全景、由学館御門、各時代の母校歴代校長、卒業写真、校旗、各時代の卒業証書、印蹟等の写真版三葉を掲げ、本文として(一)学制以前(由学館物語)(二)入十年の歩み(一)学制発布當時、(二)尋常、高等の併立時代、(三)尋常高等小学校時代、4 小学校から国民学校へ(一)そして小学校へ(5)竹田小学校の現況、6 終戦後の学校、7 將來への企画)を叙し、次に八十年を祝しての祝詞、旧職員の名簿、同窓会P. A の沿革、各時代職員生徒並に関係者の回顧と追憶等が採録されてある。(昭和廿九年、十一、一四、竹田小学校P. A 刊洋並A五判八八頁非売) (立川)

佐野佐吉著、耶馬溪村誌

故三尾母義幸本村々長が佐野翁と本村誌編纂を唱え將に緒に就かんとして寤れ、其

のまゝ止みたるを、以後の歴代村長之が現に意あつて出来ず、平田和三郎氏が村長となるに及んで古老は年々減じ、資料は歳々紙魚に葬らるの現状、荏ぜん時を過ごすべきでない、自己が兼任せる耶馬溪觀光文化協会の一事業として、協会本村支部長仲時治氏等とはかり、再び編纂を佐野翁に依頼して漸く目的を果したるものである。因に本誌發行を前にして、平田和三郎氏斃れ嗣子武夫氏協会副会長就任嚴父の志をつぎ、発刊の援助費印刷の斡旋等をなし、装禎内容共に原下村誌中白眉のものを得るに至つた。

本誌巻頭先づ年表を掲げ、第一編概況(1 郷土の原始、2 豊前国起原より置泉まで、3 下毛郡起原より置泉まで) 第二編地理(1 位置地勢及広ぼう2 沿革、3 村を構成せる八大字、4 村政、5 政治6 生業、7 灌漑水路、8 交通、9 教育、10 衛生、11 警備、12 郵便電信局、13 各種団体、14 名所、15 勝景) 第三編歴史(1 神社、2 仏閣、3 宗教、4 百姓一揆、5 今昔斷片物語、6 戦後7 古墳墓及古碑、8 諸趾、9 古文書、10 天皇陛下九州御巡幸、11 人物) 第四編雜錄、第五編追録に分ち、第三編迄は更に章を分つて細記してある。(昭和廿八年、四、五、耶馬溪觀光文化協会耶馬溪村支部刊、洋布装A五判六一頁頒価八五〇円) (立川)